令和元年度　第１回稲美町まち・ひと・しごと創生推進委員会

１　日　時　　令和元年７月 23 日（火）　15 時 30 分～17 時 00 分

２　場　所　　稲美町役場本館３階　303 会議室

３　出席者

委　員　　田端委員長、山谷委員（代理出席）、石見委員、伊藤委員、森藤委員、河南委員、志賀委員、佐藤委員、坂口委員（代理出席）、田中委員

欠席者　　長谷川副委員長、唐木委員、有馬委員、浅図委員、岩切委員

行　政　　古谷町長

事務局　　藤田浩之、田口史洋、赤松嘉彦、丸山善之

４　会議の概要

１．開会

２．町長あいさつ

３．委嘱状の交付

４．委員長あいさつ

５．説明事項

６．審議事項

（１）人口ビジョンの見直しについて

（２）総合戦略の見直しについて

７．その他

８．閉会

５　会議録

【１．開会】

【２．町長あいさつ】

〔町　長〕　　皆さんこんにちは。

本日は令和元年度の「稲美町まち・ひと・しごと創生推進委員会」にお集まりいただきましてありがとうございます。平成 30 年度の稲美町の人口動態は４年ぶりに社会増となり、47 名の転入超過があったが、自然減が 168 名となっており、合わせると 100 人減となっている。

そんな中、定住、移住を推進するために、動画やパンフレット、ポスター等のＰＲ媒体を制作している。

そして、本日皆さんにお諮りしたいのは、平成27年度から5年間の計画でスタートしている総合戦略と人口ビジョンについて、本来ならば見直しを行うが、令和３年度に稲美町の最上位計画である総合計画が策定されるため、これと一体的な運用をするために、２年間この計画を延ばしたいと思っている。

後程、議題でご提案申し上げますので、ご提言を賜ればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【３．委嘱状の交付】

【４．委員長あいさつ】

〔委員長〕　稲美町は歴史だけではなく、自然や農業生産などの特徴があり、非常に住みやすいまちである。

しかしながら、先ほど町長のあいさつにあったように、人口減少を食い止めることが難しくなっており、第２期の計画では、「思い切ったことをしなければいけないのではないか」という思いがあると思う。総合戦略と総合計画に、いかに整合性を持たせるかが、この「まち・ひと・しごと創生推進委員会」に課せられた課題ではないかと思っている。

皆さま方の忌憚のないご意見を賜りながら、進めたいと思うので、よろしくお願い致します。

【５．説明事項】

〔事務局〕　資料①について説明

〔委員長〕　事務局から説明があったように、今回は計画期間の延長ということだが、実は多くの自治体が同じような課題に直面している。総合計画と人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略をどのように整合性を持たせるか、そして第２期が始まるときに、時期をどのようにするかがどこの自治体でも大きな課題になっている。

今回は２年間の延長ということだが、少し慎重に議論しなければいけないのではないかという意見もあると思う。何かご質問等があれば、言っていただきたいと思う。

〔委　員〕　総合戦略の扱いは自治体によって異なり、何もしないでただ単純に延ばす

という市町もあり、ここまで諮らずにやるところもある。あまりこだわる必要はないのかなという気はする。

〔委　員〕　総合戦略と総合計画のすみ分けは、はっきりさせておいた方がよいと思う。無理に総合戦略というのを時期尚早で作っているという感じがする。

〔委員長〕　総合計画は最上位計画であり、概ね５年、10 年の計画で作られている。それとは別に、国から人口減を見越した総合戦略を作るようにと通達があり、戦略を策定した。補助金ということもあり、どの自治体もかなり無理をして作っている。

それぞれの自治体において、総合計画と総合戦略をどうすみ分けるのか、少々違いがあるが、稲美町の場合はどうなのか、ご説明を賜りたいと思います。

〔事務局〕　総合計画は基本構想、基本計画、実施計画の三階層になっている。

総合戦略については、総合計画のうち人口減少に対するものとして、移住施策や、子育ての支援、出産の支援等を一部分だけ総合計画から抽出したもので、総合計画同様、基本戦略、基本目標、アクションプランの三階層になっている。

〔委　員〕　きれいに切り分けることはできないので、結局は連動していかないといけない。

〔委員長〕　どのように位置付けるかというのは、自治体によってさまざま。稲美町の場合はこのような切り方をしたということだが、中には基本構想を統一化させて、逆に総合計画の方を合わせるところもある。いろいろなやり方をされていると思う。

【６．審議事項】

（１）人口ビジョンの見直しについて

〔委員長〕　総合計画にしても戦略にしても、大事なのは人口フレーム。総合計画の場合は人口フレームという言い方をし、まち・ひと・しごと総合戦略の場合は人口ビジョンという言い方をする。まず、その人口ビジョンの見直しについて、事務局の方からご説明のほど、よろしくお願い致します。

〔事務局〕　（事務局から資料①、資料②について説明）

〔委員長〕　平成 22 年度国勢調査に基づく推計に対して、総合戦略にあげる施策を行うことで、現状を維持するという人口ビジョンを作ったが、平成 27 年度国勢調査に基づく推計を行うと上振れがあった。その上振れで推計をしていいのかが課題になると思う。

資料２の 10 ページを見ると、自然減が増えているのがわかる。この内容で推移すると、2060 年にはどのようになるのかが推計でき、いかに社会増等で埋めるのかが戦略の柱である。

〔委　員〕　平成 22 年以降の転入超過の理由の分析はされているか。

〔事務局〕　資料２の 10 ページの資料では、平成 17 年から 21 年までの５年間は、社会増減のマイナスが多かったが、その数字をベースに、前回の人口ビジョンが計算されているため、「消滅可能性都市」に稲美町が入ってしまったというのが現状。

ただ、これまでも稲美町では市街化区域で、区画整理事業等を継続して行っているので、このマイナスというのが、景気に左右されたものと考えている。そして、平成 22 年以降、その市街化区域の整備の効果が表れてきたというのが現状だと考えている。

また、平成 25 年からの取り組みでは、「親元近居」という取り組みをしており、稲美町で生まれた方については、戻ってくるときに住宅取得等の補助金を支給することで稲美町出身の方の回帰を創造している。

〔委員長〕　新しい住宅が周辺地域に建っており、住宅を求めるならば住みやすいところへというのが今の方向性。そうした意味で、神戸や大阪圏への通勤可能圏内で、比較的広い住宅を入手できるところとなると、稲美町が選ばれている可能性はある。それらの効果が表れてきたのが、2010 年以降ではないかというのが分析結果。

また、2008 年のリーマンショックや、2012 年からのアベノミクスなど、景気に関する影響もあったかと思う。

（２）総合戦略の見直しについて

〔事務局〕　（事務局から資料②について説明）

〔委員長〕　総合戦略で、今回見直しを諮っている部分はＫＰＩ。いわば重要業績評価指標と言われるもので、その数字をどう設定するか。

先ほどの話では、達成困難なものに関しては見直し、あと少しというものについてはそのままにする旨の説明があったが、この判断は難しく、数字を見るだけではあと少しなのかもっと先の話なのか分かりにくい。判断材料になるようなものはあるか。

〔事務局〕　次回の推進委員会でお話しさせていただくが、30 年度のまち・ひと・しごと創生推進委員会の中でも、資料３のようなＫＰＩの達成状況というものを毎年報告している。平成 28 年度に多くの数値が出てきており、全体を見ると、

約６割が達成している状況。

〔委員長〕　これまでのところでご質問でも、ご意見でも、次回に揃えてほしい資料でも構いません。

〔委　員〕　具体的にこの冊子のどこを議論していくのかを教えて欲しい。

〔事務局〕　資料２の冊子では、青で追加している場所である。その成果を今後評価していく話になると思われる。

〔委　員〕　今度は何か提案があって、それを議論していくということですか。

〔事務局〕　その通りです。

〔委員長〕　今回は延長であり、基本的に中身は大きく変更しない。あくまで数値目標を２年間、適切に延ばすだけである。

現在、順調に延びており、更に２年間で延びる見込みがあるならば、延ばしたらいいし、目標値に対して、２年間ではとても達しないという事業の扱いは議論になると思う。

いまの状況の評価は、おそらく一つの切り口になるため、過去の経年を見ていただくのが、一つの方法だろうと思います。

〔委　員〕　私や同年代の意見を総合すると、人口が増える要因は家の建てやすさ。しかも、もともとある集落に家を建てるよりは、開発されたところで、皆が揃って一斉に住みたいという意向が結構強いと思う。

そうすると、この土地の区画整理事業が今後稲美町において、どのように進んでいくのかが、人口を考える上では非常に重要になってくると思う。

地元の方と話していても、農地がなかなか宅地に転用できないため、特に加古地区、母里地区では家が建てられないという話を多く耳にする。この点についても議論に入れていただけると、それも踏まえた検討ができるのではないか。

〔委員長〕　人口増加のポイントの一つが住宅。そういうことも数字が適切かどうかの判断するためには必要だと思う。

〔委　員〕　私がこういう会議に関わってきたときに、３万５千人の人口を目標にしましょうという話があり、それに向かって稲美町の施設等をつくっていきましょうという話だったが、いつの間にかどんどん下がり、いまは３万２千人となっている。

理由としては、先ほども言われたように、世の中の流れもあるとは思うが、土地利用がうまくいかなかったのではないかと思う。

〔委　員〕　一つ人口ビジョンを考える上で、今後日本は超高齢化社会、そして多死社会を迎える。どの地域でも、非常に危機感を持っていると思う。高齢化と言っていたのが、今度は大量死の時代を向かえる。そこで大きく減ったときにどうするのかも併せて、早急に考えていかなければならないと思う。その辺

りの予測がもし出るのであれば関連資料をお願いします。

また、稲美町の立地や特徴を見ると、公共交通のウイークポイントがあると思う。高齢者や若い方の世代など、個別具体の話となるかもしれない。

これらは、将来の人口がどうなるかということを考えていく上では、非常に重要なポイントだと思うので、その辺を示してほしいと思う。

〔委員長〕　人口ビジョンを考えるにあたって、確かに多死社会の観点と、人口構成は考えていかなければならない。私は平均年齢に注目すべきだと言っている。団塊の世代の多くの方々が亡くなると、高齢者率はあまり変わらずに、平均年齢が下がる。そのような現象がおそらく出てくる。そういう意味では先ほどおっしゃった多死社会における人口の変化というのは非常に重要。

〔委　員〕　もともとの人口ビジョンの考え方によって、この計画全てが変わってくると思う。平成 22 年と平成 27 年の国勢調査の結果でそれぞれ推計すると、結構開きが出てくるところをどう埋めていくかについて話し合う場でという理解でよいのか。

〔委員長〕　そうですね。

〔委　員〕　既存住宅の建て替えが難しいことを、お客さんから言われるケースが多い。そういうところを次回、お話しできたらと思う。

稲美町は少々奥まったイメージがある。土山駅前の話をしても仕方がないが、交通事情も非常に悪い。だから、稲美町外から通勤している者としては、すごく閉ざされている感がある。

〔委　員〕　去年から学生と一緒に移住定住促進の活動をさせていただいている中で、地域住民の方からお聞きしたことをここで報告する。

ターゲットをファミリー層とした場合、ファミリー層の方々が稲美町に移住定住されたら保育園など、いま満足して使っておられる状況がどう変わるのか。

それから、移住されたい方が住む住宅はどの辺りで、自分たちはどういうふうに受け入れたらいいのかというようなお話もされていましたので、受け皿としてどのような体制が必要かということも、同時進行で検討する必要がある。

〔委　員〕　社会増減に関しては、稲美町はがんばっていることを知ってほしい。加古川や高砂はかなり人口減少が進んでおり、県内で人口増は明石、西宮ぐらいで他は人口減が多い中、稲美町は踏みとどまっている状況。

非常に高い目標を掲げる中で、増えている地域はどこで、減っている地域はどこなのか。

また、今回使用している数字に外国人人口が含まれるのか。地域によってはこの問題が非常に絡んでくる。日本人は約 47 万人減り、外国人が約 20 万

人増えているため、全体で27万人ぐらいの減り方にとどまっているという動きがある。稲美町の場合は、そこまで特殊的な動きはないような気がするが、これから日本全体を見たときに外国人は、大きな要素のひとつである。

合計特殊出生率の1.36は、かなり特徴的な少なさだと感じた。それに対して、どのような対策を採られているのか伺いたい。

多世代同居のような話も、一つの住まい方の特徴ではないかと思う。地域的に高いと思っていたが、低かった。これらの原因分析も含めて、話ができると、皆さんも分かりやすい場になってくると思う。

社会増減は非常に頑張っておられるということとともに、1.36と低い合計特殊出生率をどう捉えるというのが、大きな方向かと思う。

〔委員長〕　社会増減については、要因を明らかにしないといけない。社人研の推計をもとに試算するにあたり、社会増減をどう計算するのかが大事になってくる。計算にあたっては、現状の把握や、適切な数字を出していくことが必要だと思う。

加えて、受け皿は住宅の問題に直結する。農地転用という難しい現状があるが、稲美町は市街化調整区域における特別指定区域や地区計画など、様々な手法で住宅地を増やし頑張っている。

もう一つ外国人の問題として、工場の寮建設の話があり、蓋を開けてみると外国人が入ることが決まっているというケース。稲美町内でも同様の動きがある。そこで問題になるのは地域の受け皿、地域がどう受け取るかというものだろうと思う。

これはこの場の議論ではないが、このようなこともこれから想定していき、人口を考えなければいけない時代が来たということは間違いないだろうと思う。このようなところも議論しないと、先ほど言った人口ビジョンを描くことはできないと思う。

〔委　員〕　先日、移住について相談を受けた。稲美町の移住計画について伺いたいと思っていた。

稲美町はどちらかというと新しく移住をするよりも、町出身者が帰ってきて建て替えを行う傾向が強いと思われるため、移住に力を入れることはないのかもしれない。しかし、移住者向けの空き家バンクのようなものがあるので、もっと受けたい側のために工夫をしてほしいと思っている。

また次回の具体的な話し合いのときに、意見させてもらいたいと思う。

〔委　員〕　どこかの資料で、稲美町が消滅都市になっていた。稲美町だけが消滅都市で真っ赤になっていて、他は薄い色になっていた。日本海側の都市に比べれば、まだこの辺はましだと思っていたが、消滅都市となっていて驚いた。

今回の会議で、指標の取り方でこれからの見方が変わってくることが分か

って、少しほっとした。そういう意味で、このいろいろな数字を統計的に見せていただくと、非常に面白いと思う。因果関係を分析すれば、社会増減で人口増に貢献できるのかと思っていた。

また、外国人の話があったが、私のイメージでは、日本が移民国家にかじを切ったような感じがしており、稲美町でも外国人の労働者の方を多く見受けられる。

私も商工業に携わる者として、インバウンド事業も含め、外国人の方の寮を建てることを町として後押ししていく方向にあると思う。単一民族の国家ですので、いろいろな国の方が入ってきたときに、そのまま後押ししていった結果、地域住民といろいろな問題が起こらないのかと思う。

ただ、日本の移民国家化は避けて通れないと思っていますので、先ほど先生が言われたように、受け皿は非常に重要な問題だと思っている。

〔委員長〕　審議事項につきまして、これで終わらせていただく。

【７．その他】

（事務局から今後のスケジュールについて説明）

【８．閉会】

〔委員長〕　本来、副委員長さまの役割なのですが、今日はご欠席ですので、私の方から一言申し上げる。

本当に本日はお忙しい中、お集まりくださいましてありがとうございました。最後にいろいろなご感想をお聞きしていると、もう１回で終わるのか心配になってきました。議論と説明の仕方は臨機応変に、事務局の方にご対応いただきたいと思う。

２年間の延長ですけれども、いまは激動期だと思っています。たった２年、されど２年にならないように、場合によってはお願いしなければならないかもしれません。事務局の皆さんにはご迷惑をお掛けするかもしれませんが、進捗状況によっては臨機応変なご対応をお願いしたいと思う。

それでは、これで終わらせていただく。交通事故等に気を付けてお帰りください。どうもありがとうございました。

（終了）